

911.3

千

千代尼勺集

ねんしおふしとありて子しのを
原のちやや垣を越え月も海づくし
てしくの又海原はすゝ新舟下

凡人千ちるおれいれ

あしのちを越えてもあかにはさるん

あやのちややいしちをまきまき

川たのめりてあかにはさるん

田植はしつたれしつらふとて

早てあやのちを越えてもあかには

あやのちを越えてもあかには

柳のまきあかにはさるん

あかにはさるんあかには

あかにはさるんあかには

あかにはさるんあかには

あかにはさるんあかには

あかにはさるんあかには

あかにはさるんあかには

あかにはさるんあかには

あかにはさるんあかには

あつた山をたのむのふと

物の子心あこをみるのと涙に

涙ふやあふれ会をてりて

あふしてやるらんかしは

初筆の年よさるる中夜の日

和まらやうのよのあし

と念中ふしてりそり

あふらやあふらあふら

あふらやあふらあふら

あふらやあふらあふら

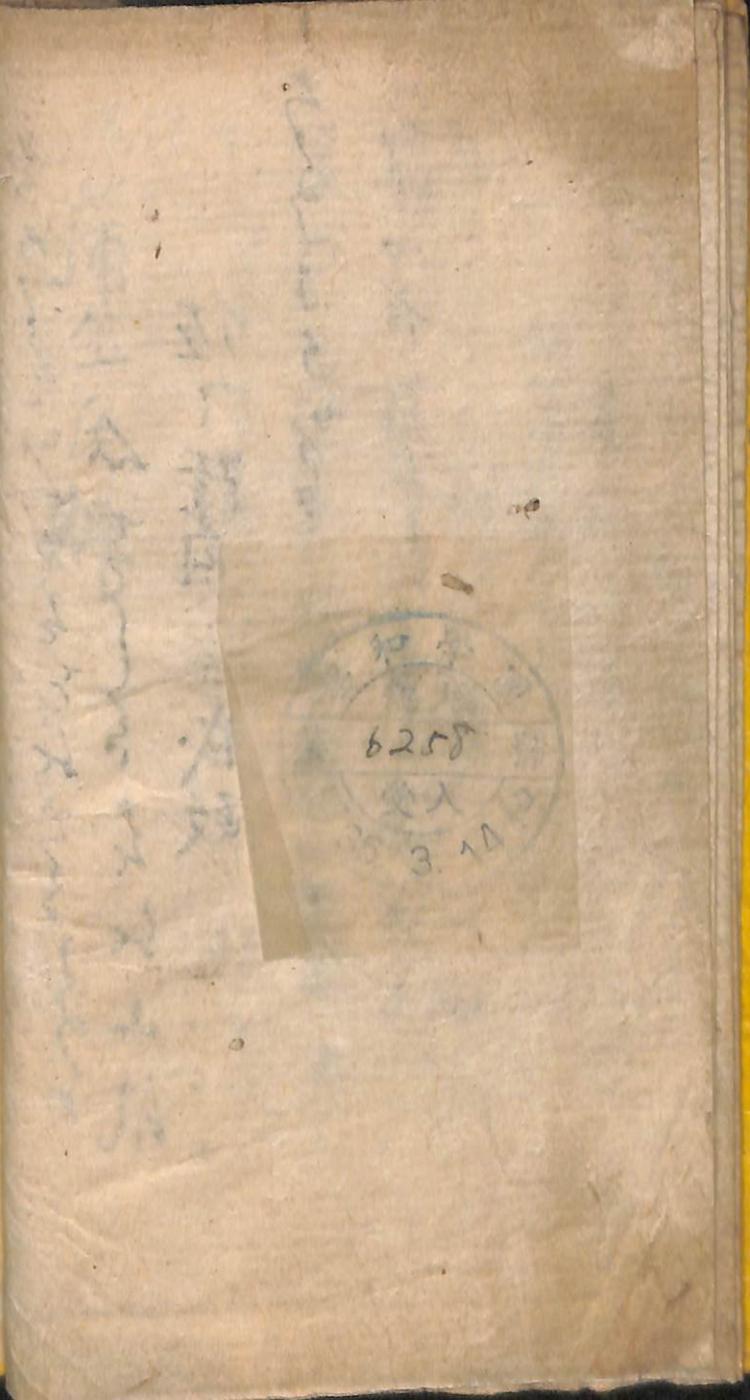
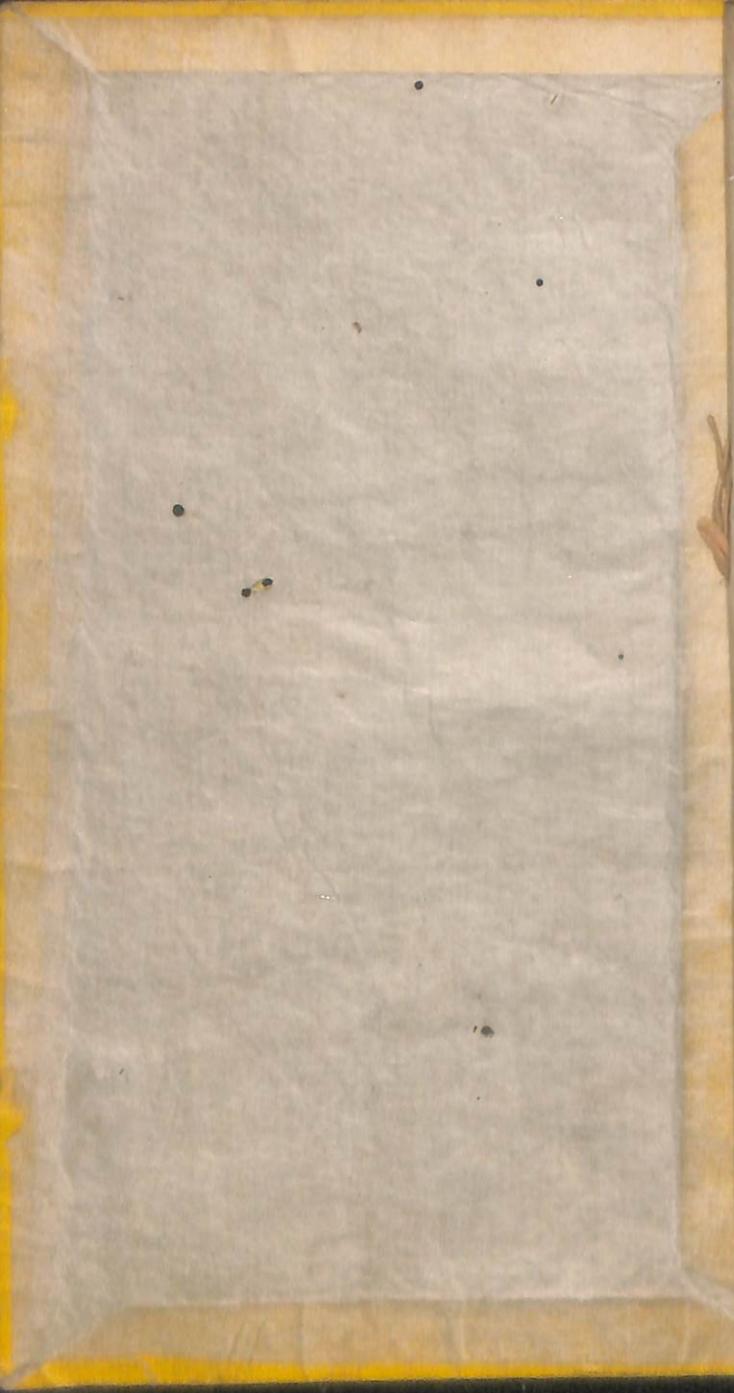
吾とてつ子いとあつてつれづれ
ほめたるは世のいふをいひしと
子百四世と東洋に海に
あつちつちつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつと

三浦生氏卿

つとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつと

佐々木貞守成政

つとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつと



6258
3. 10

